

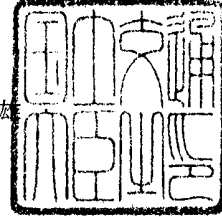


認定書

国住指第1463号
平成 17年 9月 26日

エイム株式会社
代表取締役 小野 秀男 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法施行令第46条第4項表1の(八)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

FRM-0134

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

壁の上下に開口を有する厚9mmミディアムデンシティファイバーボード張り/ねじKK50/ねじ 壁高方向@12.5cm、壁長方向@25cm/受材真壁仕様/壁長1mの木造軸組耐力壁

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

2.8の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

構造の概要

1. 面材等の概要

耐力壁に用いる面材等の概要は以下のとおりである。

(1) 面材の名称

ミディアムデンシティファイバーボード（以下「MDF」という。）

(2) 面材の構成材料

MDFの構成材料は表1に示す。

表1 MDFの構成材料

構成材料	構成割合（重量％）
木材繊維	85～88
接着剤（メラミン・ユリア樹脂系）	12～15

(3) 面材の寸法及び許容差

MDFの寸法と許容差は表2に示す。

表2 MDFの寸法と許容差

厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	許容差(mm)		
			厚さ	幅	長さ
9.0	910	600	±0.3	±3.0	±3.0
	1,000	1,000			

(4) 面材の品質

MDFは表3の性能基準値を有していること。

表3 MDFの性能基準値

項目	単位	性能基準値	準用規格
厚さ	mm	9.0	JIS A 5905
密度	g/cm ³	0.71 以上	
含水率	%	5 以上 13 以下	
曲げ強さ	N/mm ²	30 以上	
湿潤時曲げ強さ	N/mm ²	15 以上	
曲げヤング係数	N/mm ²	2500 以上	
はく離強さ	N/mm ²	0.5 以上	
吸水厚さ膨張率	%	12 以上	

(5) 面材の接着剤の品質

MDFの接着剤の品質は、JIS A 5905-2003 繊維板の接着区分のMタイプとする。

(6) 面材の取り付けに用いるねじ

MDFの取り付けはねじKK50を用いる。その詳細は表4及び図1に示す。

表4 ねじKK50の仕様

項目	仕様
記号	KK50
材質	JIS G 3539 冷間圧造用炭素鋼線 SWCH22A
表面処理	JIS H 8610 電気亜鉛めっき 2級

	JIS H 8625 クロメート皮膜 CM2 C
寸法	全長：50.0±1.2mm 呼び径：5.8±0.1mm 頭径：10.0±0.2mm
その他	特殊ノコ刃付き、頭口穴付き

(7) ねじ打ち位置の表示

MDFにはねじを打つ位置をマーキングする。マーキングの方法は、図2に示すようにねじ間隔を面材外周に印刷する。

(8) 横棧及び受材

1) 横棧及び受材は、昭和63年農林水産省告示第1443号の日本農林規格の構造用単板積層材の2級(80E-215F)とする。仕様は表5に示す。

表5 横棧及び受材の仕様

項目	仕様
寸法	横棧：厚30×幅90mm 受材：厚30×幅40mm
樹種	ラジアータパイン、ダフリカラマツ

2) 受材の取り付けはねじKK90を用いる。その詳細は表6及び図3に示す。

表6 ねじKK90の仕様

項目	仕様
記号	KK90
材質	JIS G 3539 冷間圧造用炭素鋼線 SWCH22A
表面処理	JIS H 8610 電気亜鉛めっき2級 JIS H 8625 クロメート皮膜 CM1 A
寸法	全長：90.0±1.2mm 呼び径：5.8±0.1mm 頭径：10.0±0.2mm
その他	特殊ノコ刃付き、頭口穴付き

(9) 三角金物

三角金物は横棧と受材に固定し、2個一組で使用する。その詳細は表7及び図4に示す。また、固定には表4及び図1のねじKK50を8本用いる。

表7 三角金物の仕様

項目	仕様
名称	三角金物
材質	JIS G 3131 熱間圧延軟鋼板及び鋼帯 SPHC
概要寸法	幅30×高150×長150mm、板厚4.5mm
表面処理	ダクロタイズド
接合具	ねじKK50

(10) KHD引き寄せ金物

KHD引き寄せ金物は柱の脚部を接合するために用いる。その詳細は表8及び図5に示す。また、固定には図6のラグスクリューφ12を5本用いる。

表8 KHD引き寄せ金物の仕様

項目	仕様
引き寄せ金物	KHD引き寄せ金物 概要寸法：厚6×幅44×長525mm 材質：JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材 SS400 表面処理：JIS H 8610 電気亜鉛めっき2級、JIS H 8625 クロメート皮膜 CM2 C
接合具	ラグスクリューφ12 寸法：外径φ12、呼び長さ100、軸径φ12、谷径φ9.1mm 材質：JIS G 3505 軟鋼線材 SWRM10 表面処理：JIS H 8610 電気亜鉛めっき2級、JIS H 8625 クロメート皮膜 CM1 A
	ばね座金 寸法：外径φ22.7×厚3.2mm、内径φ13mm 材質：JIS G 3506 硬鋼線材 SWRH77B 表面処理：JIS H 8610 電気亜鉛めっき2級、JIS H 8625 クロメート皮膜 CM1 A
	丸座金 寸法：外径φ26.0×厚2.3mm、内径φ13.5mm 材質：JIS G 3131 熱間圧延軟鋼板及び鋼帯 SPHC 表面処理：JIS H 8610 電気亜鉛めっき2級、JIS H 8625 クロメート皮膜 CM1 A
引き寄せボルト	ボルト、ナット ねじの呼び：M16

2. 耐力壁の適用範囲

(1) 壁の上下に開口を有する耐力壁の適用範囲は、建築基準法施行令第40条～第49条（ただし、第48条を除く。）に準拠した木造軸組とする。

(2) 当該耐力壁を建築基準法施行令第46条第4項表1に掲げる壁若しくは筋かいと併用する場合は、5を限度としてそれぞれの倍率を加算できるものとする。

(3) 当該耐力壁を連続して設ける場合は、2枚以下とする。

(4) 当該耐力壁を平面隅角部に設ける場合には、一方向のみとし他方向には必ず開口部のない耐力壁を設けるものとする。

3. 耐力壁の施工仕様の概要

(1) 軸組材等

1) 柱、土台、梁、胴差及び桁の断面寸法は105×105mm以上とする。

2) 柱の間隔は910、1000mmとする。

3) 受材の断面寸法は30×40mm以上とする。

4) 横棧の断面寸法は30×90mm以上とする。

(2) 受材の取り付け方法

(別添)

- 1) 受材は横棧と横棧の間に配置する。
 - 2) 受材はねじKK90を用い、ねじ間隔@250mm以下で柱に固定する。
- (3) 横棧の取り付け方法
- 1) 横棧は軸組高さ方向に4本配置する。
 - 2) 横棧の固定は三角金物を用い、横棧へ4-KK50、受材へ4-KK50でとめつける。
 - 3) 床側の横棧は、土台上面から150mm以内に取り付ける。
 - 4) 天井側の横棧は、梁、桁等の下面から200mm以内に取り付ける。
- (4) 面材の取り付け方法
- 1) 面材は軸組の高さ方向に3枚張りとし、受材及び横棧に取り付ける。
 - 2) 面材は軸組高さ(梁下端又は桁下端+50mmの位置から土台軸芯までの距離)の80%以上を張ることとする。
 - 3) 面材の取り付けはねじKK50を用い、ねじ間隔は壁高方向@125mm以下、壁長方向@250mm以下とし、縁端距離は20mm程度とする。
- (5) 開口高さ
- 壁の上下の開口高さは、天井側は高さ200mm以下、床側は高さ150mm以下とする。
- (6) 柱の接合
- 柱の脚部はKHD引き寄せ金物を介して、基礎に直接緊結するか、又は土台を介して基礎に緊結する。
- (7) 施工詳細図は、図7に示す。

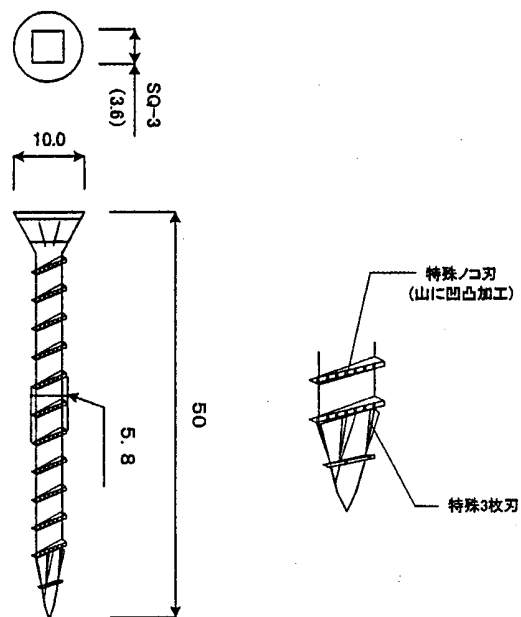


図1 KK50の詳細図 (mm)

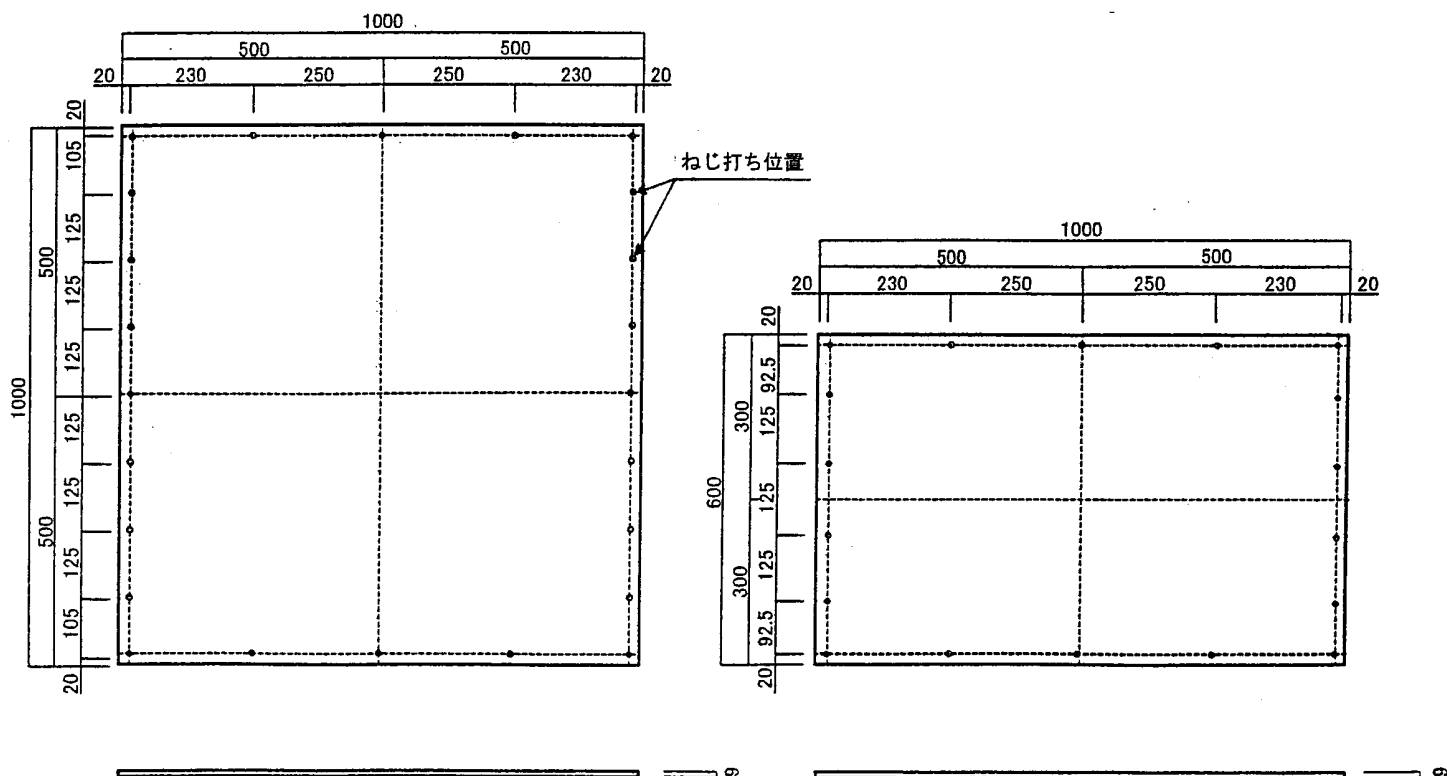


図2 ねじ打ち位置の印刷仕様 (mm)

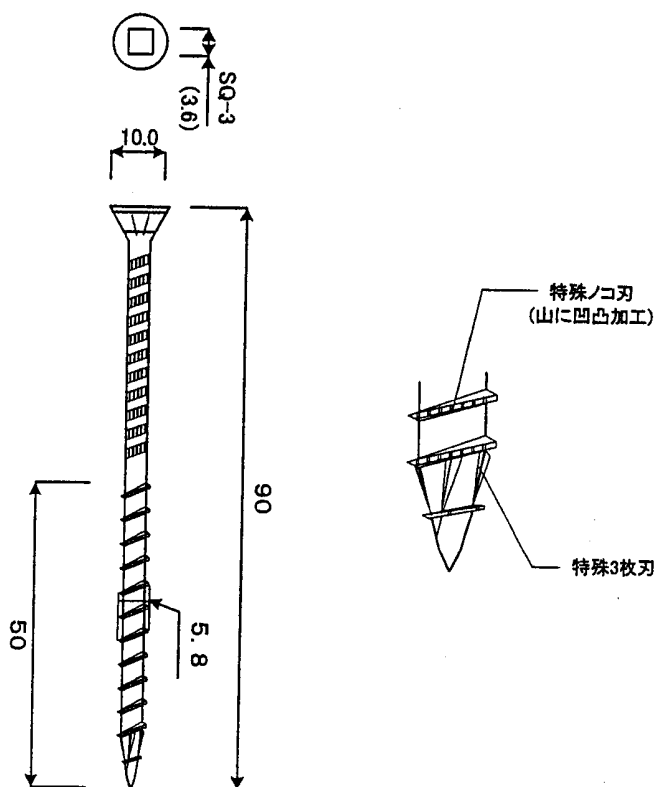


図3 KK90の詳細図 (mm)

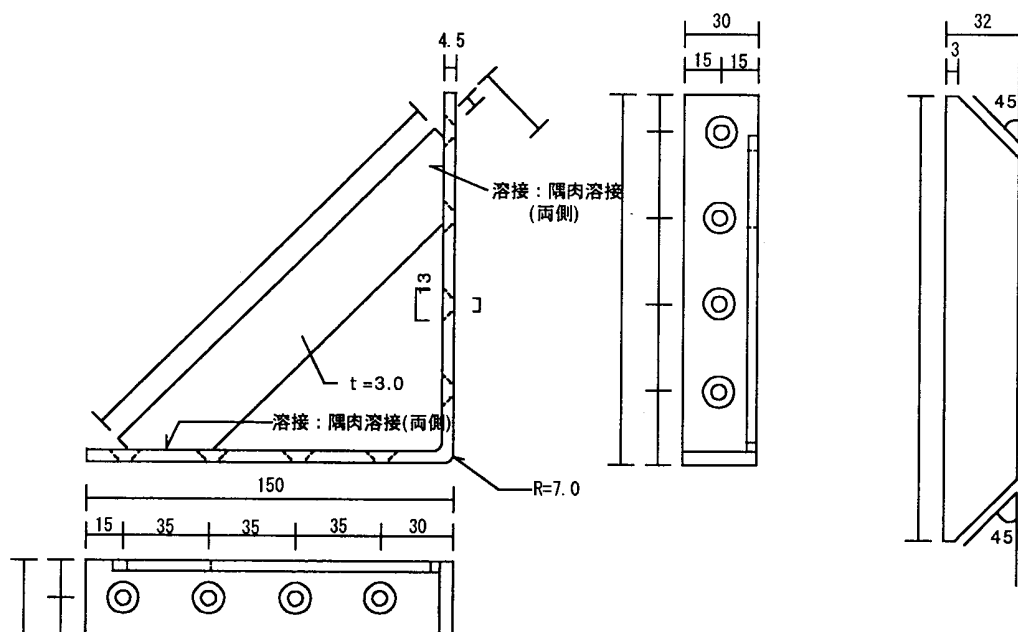


図4 三角金物の詳細図 (mm)

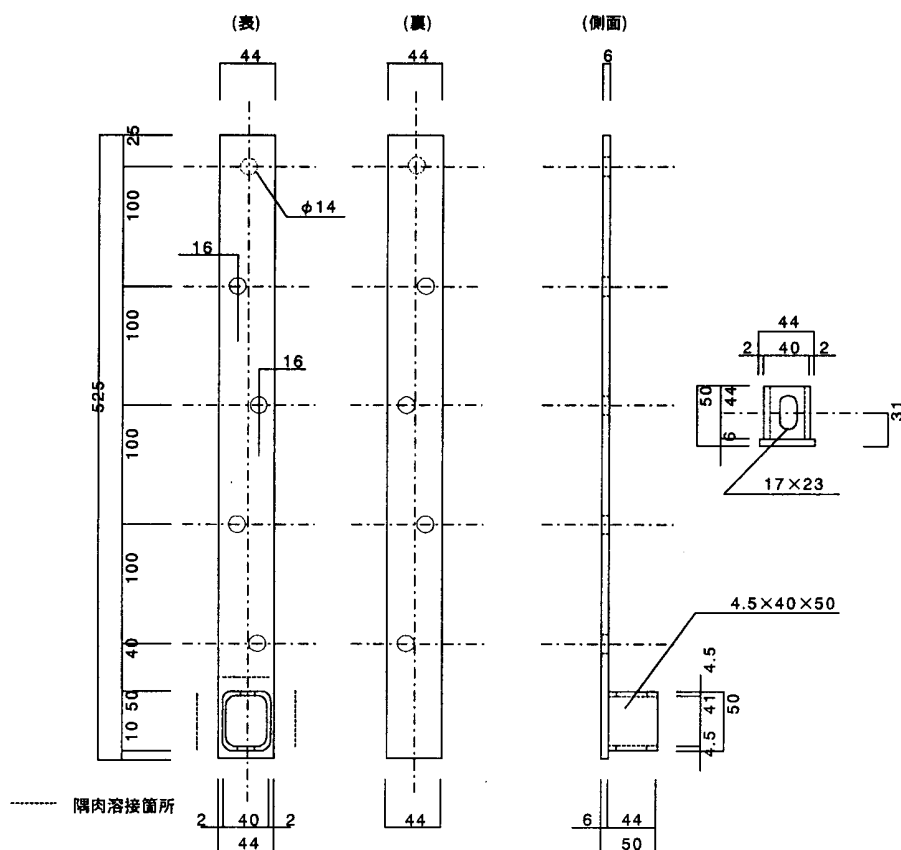


図5 KHD引き寄せ金物の詳細図 (mm)

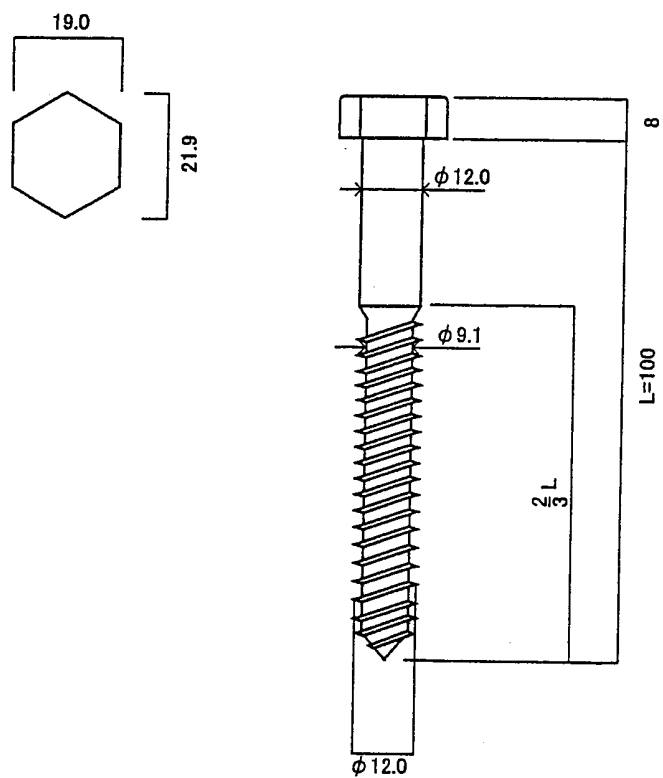
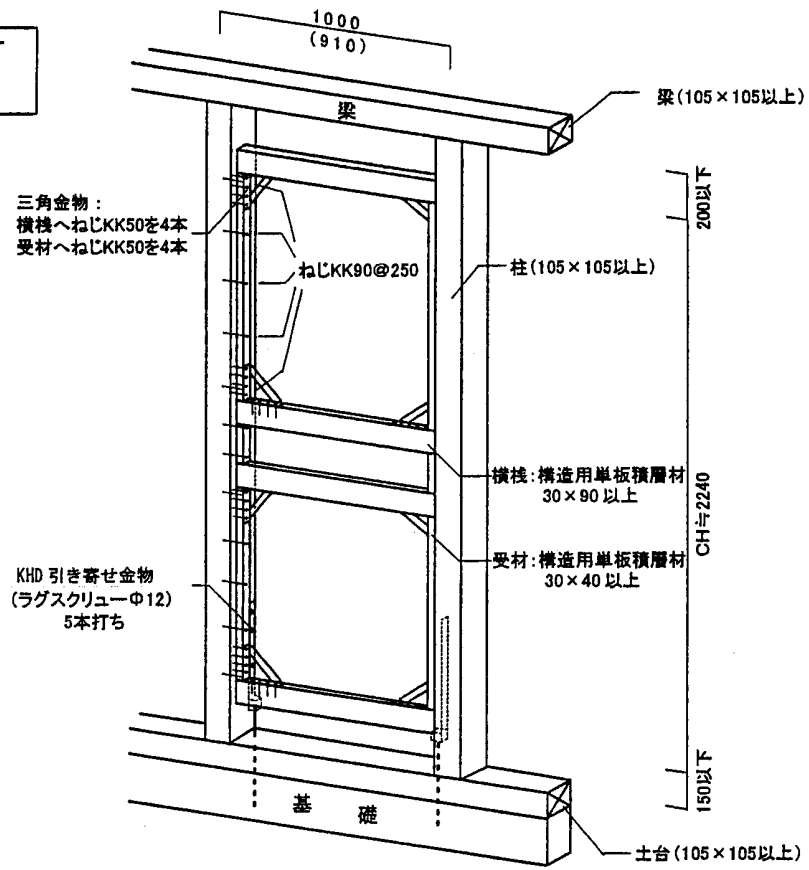


図6 ラグスクリュー $\phi 12$ の詳細図 (mm)

横棧及び受材
取付け図



面材張付け図

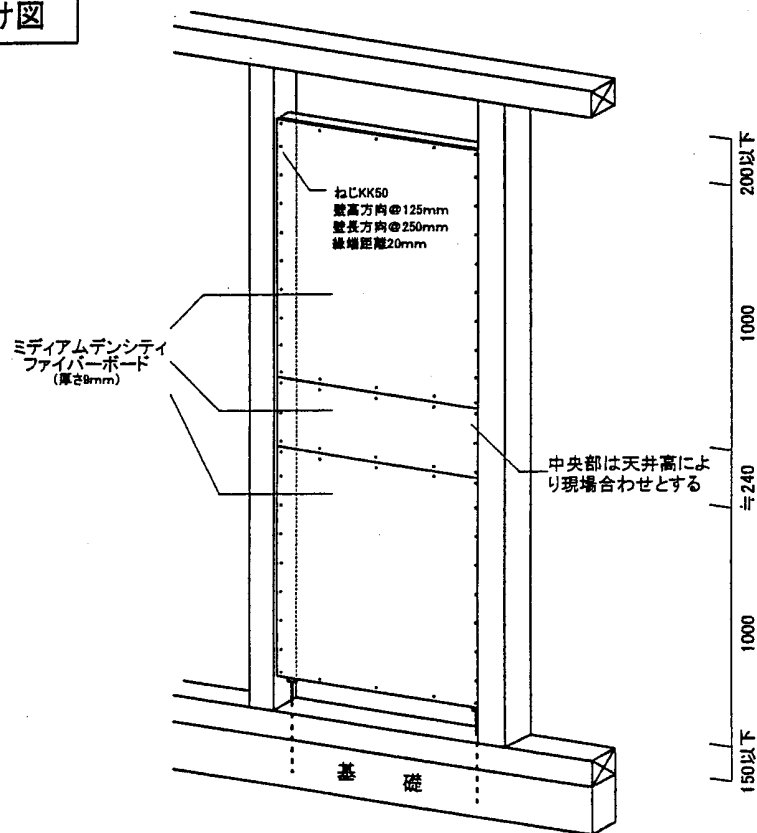


図7 施工詳細図 (mm)